

桜前線に追われて東北旅行

2008.06.

鹿間町 山家 多喜男

私も今年3月で古希となり仕事も少し暇になったのと、家内の妹が定年を迎えたのを機会に、姉弟・姉妹4名で桜前線を追いかけて東北ドライブ旅行に出かけた。

いつもの事ながら、事前に東北地方の桜情報を調べ、秘湯や景勝地を組合わせて、10泊11日の予定を立て、5月の連休前には戻れるように計画しました。

今年の桜前線は、地球温暖化の影響で例年より1週間程早まっているようなので、最終目標地の弘前城址の桜も、開花していることを期待して出発しました。

1日目は鈴鹿ICを午前10頃出発し、浜名湖SAで昼食を取り、富士宮SAで雪の富士山の見る予定でしたが、残念ながら雨雲に隠れて見れませんでした。

夕方都内を通過し、東北道的那須高原SAで夕食をとり、翌日の三春桜見物のため磐越道の三春PAで仮眠を取りました。走行距離は約650kmでした。

2日目はPAを午前6時半に出発し、三春船引ICから三春桜をめざしました。雨の早朝にもかかわらず、桜の周辺には早くも観光客が集まっていました。

三春桜は日本三大桜と称され、まだ七部咲き程度でしたが、四方に太い枝を伸ばし、薄紅色のベニシダレザクラの花が垂れ下がっている様は、まさに滝桜でした。

樹齢千年を超える桜の名木は、岐阜の淡墨桜や山梨の神代桜も見ましたが、何れも樹に勢いがないので、三春滝桜こそが天下一と思います。

幸い平日で雨の早朝のお陰で、ゆっくりと周囲を回りながら見物でしたが、もし休日だったら、東京圏に近い所なので、大変な混雑になると思われます。

三春桜を堪能した後、東北道で白石ICまで行き、小説『樅ノ木は残った』の原田甲斐の居城・船岡城址と、白石川堤の一目千本桜を見物しましたが、雨空の中で眺望も利かず、すでに散り始めていたので、東北三大桜も残念でした。

その後本日の宿・ルートイン盛岡南へ向かって、東北道を北上しました。

3日目は、日本三大鍾乳洞の龍泉洞を見物し、「海のアルプス」と云われる三陸海岸の北山崎に行きました。ここも風雨が強く見通しがよくなかったので、案内所で映像で北山崎の四季を鑑賞しました。

案内所内に訪問した人の県名を地図に表示するコーナーがあり、三重県からは初めてだったので、4人分のシールを貼ってアピールしてきました。

その後三陸海岸を南下し、本日の宿・浄土ヶ浜ホテルに向かいました。ここは今回の旅行で1番気に入ったホテル（1泊2食・1万2千円台）となりました。

景色良し、施設・サービス良し、料理良しのホテルで、たまたま予約が取れましたが、本来は東京から直通バスの便もあり、混雑しているようです。

4日目は、ホテルの好意で浄土ヶ浜海岸を車で見物し、盛岡市に引き返しました。盛岡市内で幸運にも石割桜を車窓から見物して、小岩井農場へ向かいました。

ここにはテレビで有名な一本桜があるが、牧場の中のため近くへは行けませんが、ちらほら咲きながら岩手山をバックに悠然と立っていました。

その後一路弘前城へ向かい、午後4時頃に城近くの弘前ホテルに到着しました。弘前城址の桜は正に満開で、荷物降しもそこそこに桜見物に出かけました。

先ず外堀の桜並木が満開で迎えてくれ、追手門から中に入ると桜のトンネルが続き、赤い欄干の橋とされ桜の向こうに、天守閣がそびえていました。

ここの桜は幹が太くて枝ぶりもよく、花もソメイヨシノ、しだれ桜、八重桜と種類が多く、特に本丸庭園の桜は見応えのあるものばかりでした。

5日目 早朝5時からビデオを持って、一人で弘前城址の桜撮影に行きました。昨日は夕方カメラでは良い写真が取れなかったのと、ここの桜を表現するにはどの木も立派で目移りがして、全体をビデオ撮影するしかないと思いました。

今日は晴天で、本丸庭園からは遠くに津軽富士・岩木山が望め、朝の散歩を楽しむ地元の人との会話も交えながら、約1時間の撮影を終えました。途中でパラグライダーが空撮しているのとは出会いましたが、さぞかしいい景色が撮れたことと思います。

本日は先ず青森市に向かい、「三内丸山遺跡」を見物しました。

10年程前に一度来ているのですが、周囲の施設は立派になっていましたが、中に入ると懐かしい掘立柱のタワーと、縄文集落が迎えてくれました。実は私は縄文系の人間(?)と思っています。理由は柔かい耳あかにあるようで、あまり深くは考えていませんが、なぜか東北や北海道の自然を見ると血が騒ぎます。

その後「ねぶたの里」を見物し、ラッセ、ラッセの跳人と屋台引きの体験をし、八甲田山に向かいました。途中から残雪が見られロープウェーで山頂に上がると一面の銀世界が待っていました。

さすがに樹氷はありませんが、春スキーを楽しむ若者のシュプールが斜面のあちこちに残っていました。

その後本日の宿・酸ヶ湯温泉に着きました。前回訪問したのは紅葉真っ盛りの頃で、入浴もできず食事がやっとの混雑でしたが、今回は残雪とブナの森林の中に、閑かにたたずむ秘湯の風情を、ゆっくりと味わうことができました。

この温泉の売りは混浴の千人風呂ですが、他にも風呂はいくつかあるので、この日は湯治客のおじさんが、十数名湯船に入っただけでした。

6日目は、3m近い残雪の壁が続くコースを通して十和田湖へ向かいました。途中、睡蓮沼に立寄りましたが全て雪一色で、これから八甲田山に山スキーに向かう二人組に出会いました。

半世紀も前に、立山で山スキーに興じていた頃を思い出し、感慨深くなりました。

奥入瀬川溪谷はまだ春浅く、錦秋の頃には比べようありませんが、十和田湖からの清流が渦を巻いて流れていました。

十和田湖では高村光太郎の「乙女の像」の前で、昔の乙女の記念写真を取りました。

帰り道で白鳥の羽根を拾いながら、帽子に刺して喜んでおりましたが、後で知ったのですが、十和田湖の白鳥が鳥インフルエンザで死んでいたと聞き、ビックリしましたが、誰も体調には問題なかったので安心しました。

その後、秘湯・玉川温泉に立寄りました。ここは癌にも効くと云われているだけに、看護師も常駐していて、足にケガをしていた姉は応急処置をしてもらいました。

湯船は、元湯の割合で100%、75%、50%に別れ、温度も高・中・低の3区分があり、合理的で病気の治療に利用されていることがよく分かりました。元湯100%に入りましたが、身体中がヒリヒリして早々に飛び出しました。

本日の宿、乳頭温泉・鶴の湯は、古民家風の風情のある秘湯で、人気が高く予約が取りにくい温泉ですが、連休を避けたのでゆっくり楽しむことができました。温泉は乳白色で周囲の自然に溶け込み、しばしの間家族で混浴を楽しみました。

7日目は先ず田沢湖に向った。湖畔には黄金のたつこ像がたたずみ、足元をウグイが群れをなして泳いでいました。（近くの売店でエサを売っていました）

角館の武家屋敷に着いたのは昼頃で、今回の旅行で1番賑わっていました。桜は半分散っていたが、町並みを見物していると、小学生の一団に捕まりました。角館小学校の4年生が社会科の学習で、観光客に角館の案内をしているようです。

まじめな顔で話してくれるのを聞いていると、孫の話を聞いているようで、楽しい思い出になりました。（名刺をくれたので、メールでお礼をしました）近くに桧木内川堤があり、桜の名所となっていますが、花吹雪の状態でした。

その後大曲ICから秋田道で北上江釣子ICに行き、桜の名所・北上展勝地を見物しましたが、残念ながら花びらがじゅうたん状態になっていました。途中、北上川をまたいで鯉のぼりが渡してありましたが、その中に真っ黒なウナギが混ざって泳いでいました。土地の風習でしょうか。

今日の宿は花巻温泉郷の大沢温泉でしたが、初め案内されたのが思ったより豪華で、予約の話も不明確であったが、暫くして別館の方の予約と分りました。別館は川を隔てて向こう岸にあり、わら葺屋根の風情のある建物でした。

この温泉は宮沢賢治が愛用していた所で、至る所に歌碑や写真が飾ってあり、温泉は新館・別館共通で、川沿いの混浴露天風呂は、曲がり橋を渡るお客からも丸見えで、返って通行する方が顔を背ける程でした。

8日目は、高速道路を離れて国道4号線で、一関まで南下しました。はじめに陸中一の宮・駒形神社にお参りしましたが、伊勢神宮遷宮の案内板が立っていて、古代からの日本文化が受け継がれていることに、頼もしさを感じるとともに、伊勢の国に住まいする幸せを感じました。

次に中尊寺・金色堂を見物しましたが、余りに外国人の多いのに驚きました。主として中国、韓国、台湾の人々ですが、観光という平和な手段で市民が交流することが、これからの日本にとって望ましいことだと思います。

それにしても、鶴の湯にも彼らが泊まっていたのにはびっくりしました。やはり同じモンゴロイドとして、感性は似ているのでしょうか。

昼食は前沢牛の本場（牛街道）で、牛タンを食べようと店を覗いたのですが、牛タンは全て仙台に持っていかれているようで、名産品の内幕を知りました。さすがに昼食に前沢牛のステーキは勿体ないので、シチューを注文しました。

一関に少し早く着いたので、近くの巖美峡を見物に行きました。

ここは木曽路の寝覚ノ床のような所ですが、雪解け水と雨のため水量が多く、迫力のある渓谷美を見ることができました。

かんぽ一関は展望の良い高台にあり、ひと昔前なら極楽のような世界でしたが、今は郵政合理化の波の中で、必死にサービスに努めているように見えました。その中で出血サービスの「かにバイキング」に期待をしていましたが、世の中はそれ程甘くないことが分りました。

9日目は、少し北上して「えさし藤原の郷」に行きました。

ここは奥州藤原一族の栄華の址で、金色堂をはじめ時代考証に基づいた建物が120棟ほど建てられた、平安時代の街並みを再現した歴史テーマパークです。

開場間もなかったので観光客が疎らで、連休へ向けて工事のため、政庁の横には軽トラが止まっていましたが、中はゆっくりと楽しむことができました。談話室の「秀吉の黄金の茶室」は、その時のお土産です。

今日の昼食は昨日の未練を晴らすため、仙台城址の伊達牛タン本舗青葉城店へ向かいました。残念ながら「極厚芯タン焼」はなく、すこし厚めの牛タンを焼いたものだったので、途中から冷めて硬くなってしまいました。

我々が普通の焼肉店で、薄く切ったものを焼きながら塩味で食べる方が、美味しく感じました。

伊達政宗公の騎馬像に挨拶をして、仙台城を後にして松島に向かいました。途中、松島湾を見下ろす高台にある、東北随一の大社・塩竈神社を参拝した。境内や近くの庭園には、しだれ桜を中心に春の花が咲き競っていました。

松島は明日見物するので、宿のある奥松島に直行しました。

かんぽ奥松島は半島の先端部にあり、裏側は野蒜海岸の砂浜になっていました。明日は仙台港からフェリーで名古屋に向かうので、荷物の整理を行いました。

10日目は、午前10時半頃には仙台港に到着する予定としました。
松島の手前で松島魚市場に立ち寄り、海産物の土産を買い込みました。

さすがに松島は団体客が多く、外国語至る所でも氾濫していました。
先ず五大堂を見物し、歩いてすぐの瑞巖寺へ向かいました。
瑞巖寺の杉並木は中々見応えがあり、その奥に国宝の本堂が見え隠れしています。
堂内には見事な襖絵や欄間などがあり、裏山の桜が満開で枝垂れていました。

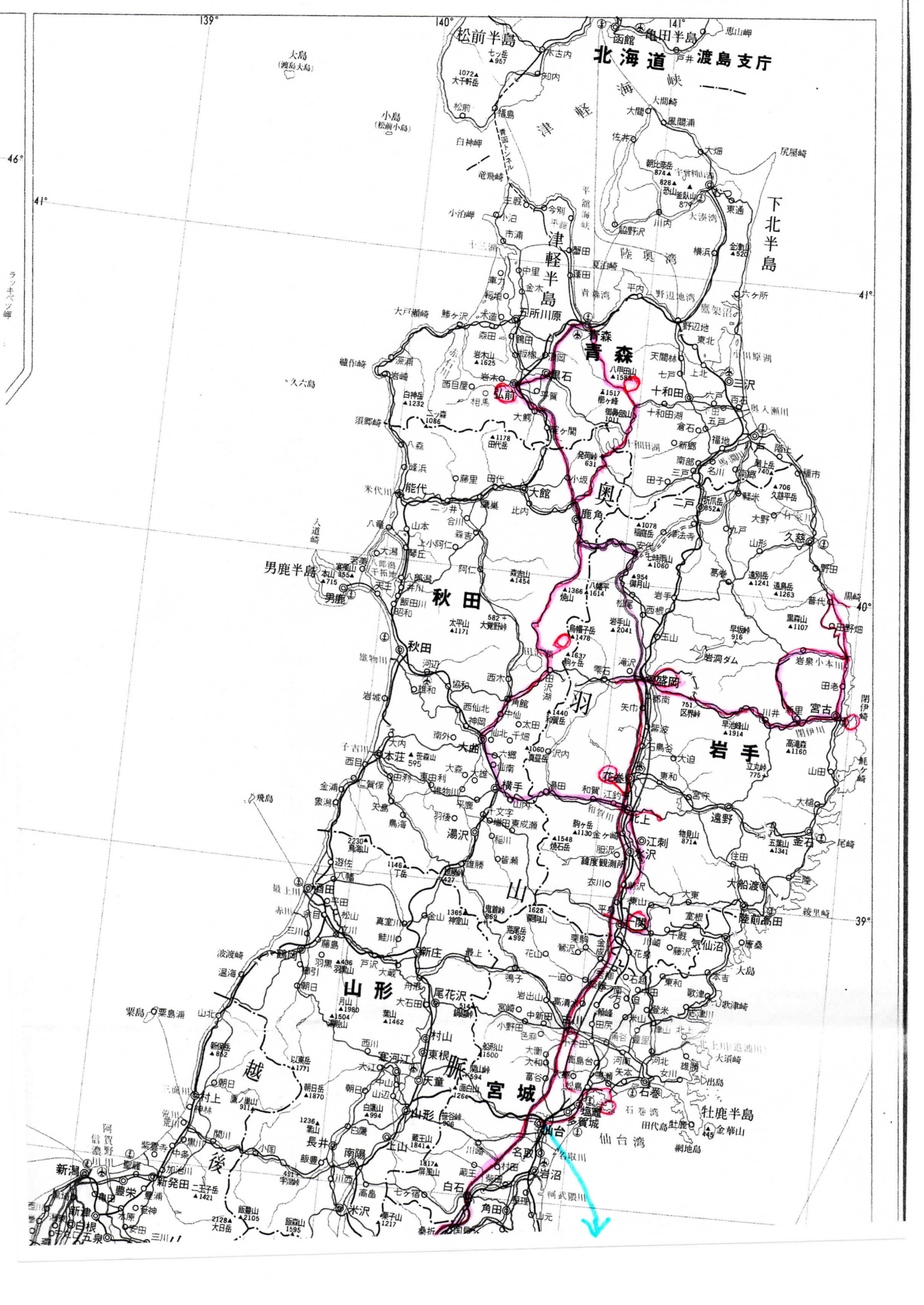
12時頃から太平洋フェリーの「きたかみ」の乗船が始まりました。人と車は別なので、迷子にならないか心配したが(?)、無事1等船室201号室に落ち着きました。

フェリーでの旅行は何度かありましたが、貸切で個室に入ったのは初めてで、
気兼ねなく寛げたのは良かったのですが、食堂へ行くのがいつも遅くなり、
テーブルの空くのを待たされたり、隅っこで食べることになりました。

11日目は、地平線から昇る太陽を見ようと、4時半頃に起きてから大浴場
に入りましたが、太陽の昇る方角と反対のため、デッキに出て待機しました。
曇り空で1時間程度は太陽の姿は現れませんでした。
(そのために湯冷めをして、翌日は会社でおとなしくしておりました。)

午前9時半過ぎに名古屋に上陸後、名古屋市内を観光案内しましたが、
名古屋城周辺の新緑のまぶしさに、日本列島の南北の広がりを感じました。
最後の昼食は飛島村・立松で、櫃まぶしを堪能しました。

以上、お粗末さまでした。



東北旅行 ベストスリー (きたかみ船内で審査)

2008. 4. 27

区分	項目	1 位	2 位	3 位	番外	総合評価
1)	桜	三春滝桜	弘前城	白石川・船岡城	小岩井・一本桜	例年より10日早い
2)	温泉	玉川温泉	大沢温泉	鶴の湯	酸ヶ湯	秘湯巡り
3)	名所	龍泉洞	巖美峡	八甲田山	松島	山は雪、里は桜
4)	史跡	中尊寺	瑞巖寺	塩竈神社	駒形神社	甲乙なし
5)	自然	フナ林	八甲田雪の壁	三陸・北山崎	玉川温泉周辺	
6)	催し	えさし藤原の郷	ねぶたの郷	三内丸山遺跡		
7)	町並	角館武家屋敷	弘前城周辺	仙台城周辺	名古屋城周辺	
8)	ホテル	浄土ヶ浜	ルートイン盛岡南	かんぽ一ノ関	きたかみ1等個室	料金1万円程度
9)	料理	浄土ヶ浜	鶴の湯	一ノ関		
10)	昼食	本陣大名そば	半次郎ライス	大盛あんかけ	立松・樺まぶし	
11)	出来事	姉の転倒	小学生案内人	貫之と式部		
12)	ハズレ	奥入瀬溪流	弘前ホテル	仙台牛タン	船内バイキング	
13)	オマケ	琥珀プレゼント	生ビール無料	浄土浜車両許可	予算戻し	